

## ◎景気ウォッチャー調査[2018年2月]

### 2018年2月の中国地域調査結果の概況

#### ■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を1.8ポイント下回る48.2となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「大雪の影響による生鮮食品や灯油とガソリンの値上がりで客の買い控えが生じている。」(一般小売店)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.7ポイント下回る44.9となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「大型案件の生産がピークで、輸入品の入手難から国産品へのシフトもあり、多忙な状況となっている。」(窯業・土石製品製造業)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.9ポイント上回る53.6となった。

雇用関連は、「現在の大学3年生は業界研究セミナーやインターンシップへの参加が前年同時期よりも増えている。採用者数に変化はないが売手市場であることを十分に理解して接触機会を持つなど、前年よりも積極的な動きがみられる。」(求人情報誌製作会社)等の理由から、「変わらない」の回答の割合が増加したものの、「良くなっている」「やや良くなっている」の回答の割合が減少したため、前月を4.4ポイント下回る60.3となった。

	2月	1月	前月差
合計	48.2	50.0	-1.8
家計動向関連	44.9	47.6	-2.7
企業動向関連	53.6	50.7	2.9
雇用関連 (参考値)	60.3	64.7	-4.4

#### ■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を1.2ポイント上回る53.1となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「野菜の価格相場が落ち着き、気温も暖かくなることから行楽需要が見込める。今回の相場高の影響から安さへの客の反応は早く、買物もしやすい環境になる。」(スーパー)、「3月は気温も上昇し異動の時期ともなるため客の動きが良くなる。客の消費行動は引き続き控えめであるが、景気は良くなる。」(タクシー運転手)等の理由から、「良くなる」「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.5ポイント上回る51.7となった。

企業動向関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「円高による輸出向けの落ち込みが懸念されるが、苛性ソーダの大幅値上げも浸透して主要取引先のフル稼働も継続する。」(化学工業)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.1ポイント上回る55.0となった。

雇用関連は、「地元自動車メーカーが国内生産を増加していることから自動車関連産業は好調を維持し、建設は駅再開発を始めニーズが当面は堅調に推移する。一方、小売は有効求人倍率13倍と採用に大苦戦、金融はマイナス金利の影響で収益が減少、電力などインフラ関連も小売自由化で減収が続くなど、業績回復が見込まれる業界はまだ限られる。全体の求人倍率が2倍で高止まりし、生産活動の源泉である人材確保はどこも苦戦が続く。」(人材派遣会社)等の理由から、「変わらない」の回答の割合が増加したものの、「良くなる」の回答の割合が減少したため、前月を3.0ポイント下回る58.8となった。

	2月	1月	前月差
合計	53.1	51.9	1.2
家計動向関連	51.7	50.2	1.5
企業動向関連	55.0	52.9	2.1
雇用関連 (参考値)	58.8	61.8	-3.0